

ブドウ畑にいと、季節の移り変わりを感じますね。

山梨に通い始めて20年近く。撮影のため、乗馬の練習で小淵沢を訪れたのが始まりでした。最近ではワイナリーを訪れることが多く、月に一度は山梨へ。ワインはもちろん、自然や人とのふれあいなど、「山梨を楽しんでいます。」



ワインに魅せられて山梨へ。

「最近一番頻りに訪れている県は山梨ですね。東京から中央道に乗って長いトンネルを2つ抜けると、もう甲府盆地。以前はもう少し遠くに感じていたんですが、最近ではほんのひと足という感覚です。車で1時間ちょっとあれば来られますからね。」

その目的は、やはりワイナリー。無類のワイン通として知られ、日本ワインを愛する会副会長、日本ソムリエ協会名誉ソムリエでもあり、ワイン番組も持っている辰巳さんにとって、ワインの産地山梨はとても身近な存在。仕事で訪れることはもちろん、撮影の後にプライベートで別のワイナリーに立ち寄ることも

多いそうです。

「山梨県にある約80軒ものワイナリー全部をまわるつもりですが、まだまだ時間がかかりそうですね。このワイナリーも競いあつて年々品質が向上しているの、本当に楽しみです。やはりワインは山梨県の顔ですから、日本のワインを引っ張るリーダーとして、ますます頑張りたいと思っています。」

自然とふれあえる山梨にいと、ほっとするんです。

ワイナリーを訪れる時は、必ずブドウ畑にも足を運んでいるそうで、ブドウの木を見ることも山梨での楽しみの一つといえます。

カボチャがとけたほうとうに、茶碗で飲む一升瓶ワイン

「ほうとうは結構好きなんですけど、観光客向けのキレイなほうとうはつまらない。カボチャがドロドロにとけ出している、素朴なやつの方が絶対旨いですよね。ワインも一升瓶を茶碗で飲むっていうのがいい。学生時代を思い出します。一升瓶ワインは日本にしかないもの、大事にしなければ。」

そう言って笑顔を見せた、山梨通の辰巳さん。山梨のあれこれについて語ってくださった言葉のはしはしから、山梨に対するあたたかい思いが伝わってきました。

ん畑にも携わっていて、地にしっかりと足が着いているんです。とても人間らしい生き方をしていると思います。」

山梨はサイズの的にも画期的なおもしろい開発ができる地域。

地域活性化を応援する番組も持っている、地方への熱い思いを持っている辰巳さん。山梨に対していろいろな思いを抱いています。

「ブドウ畑が広がる勝沼の景色っていいですよ。今、全国どの町も同じような開発がされてしまっていますが、勝沼



自らが企画し、ホストを務める衛星放送のワイン番組の撮影で、山梨県内のワイナリーを訪れた辰巳さん。プライベートでも県内のワイナリーにはよく来ているそうです。(日本最古のブドウの木「甲龍」の前で)



テイスティングする姿もステキな辰巳さん。一升瓶ワインを茶碗で飲んでいる辰巳さんもきっとステキなんでしょうね。

Information
「辰巳琢郎のワイン番組—Tatsumi Winery」
 辰巳琢郎さんが自ら企画し、ホストを務める、2006年から続くわが国唯一のワインがテーマのレギュラー番組。今回伺った大和葡萄酒さんは7月4、5日の放送に登場します。
 BSフジ 毎週土曜日22:00～22:30/毎週日曜日16:00～16:30(再放送)